

●「レスパイト機能充実へ向けての検討」進捗状況 要約

・2019年9月

包括的支援事業情報交換会にて包括1ヶ所から「医療重度者や認知症の周辺症状が強い場合、レスパイトが利用できにくい。在宅療養の推進は、家族の負担軽減ができなければ進まないのではないか」との課題提案がポピーへあった。

・10月 山形市地域ケア調整会議にてポピーより上記課題提案。

・11月 村山緩和ケア研究会にて意見交換：(特養～)、(包括～)、(在宅医療・介護連携室～)情報提供し参加者ケアマネジャー他35名とディスカッション。ここからのつながりで、いずれ、地域でレスパイト資源の整理ができれば「緩和ケアの地域連携マップ」に載せることも可能性ありとの声が病院から出ている。

・2020年1月24日(ポピー企画)

レスパイトに関係する機関の関係者14名にて情報交換会
ここまでの経過により、次の3点について進めていく方向性が見えてきた。

① レスパイト資源の
組織化
(ショート等連絡会)

②資源の
集約・整理

③調整機能の検討

・2020年2月23日(基幹型企画)

上記①のレスパイト資源(主にショート)の組織化(事業所連絡会)について、特養施設長連絡会等から3名参加者：市特養施設長連絡代表、単独型ショーステイ代表、特養施設長、基幹型包括、ポピーにて検討す。関係者を広げた次回話し合い日程を、コロナ関係の動きをみて決める予定となった。

・2020年7月13日(基幹型企画)

- ・上記を受け、山形市内介護保険事業所の短期入所連絡会幹事(予定者)会開催
- ・結果：短期入所連絡会決定。本日参加の施設の現場担当者(相談員等)を幹事とする。
- ・この連絡会から「レスパイト機能としての課題検討部会」のようなものを、短期入所連絡会以外の関係者(ケアマネジャー、訪問看護、小規模多機能等)も含め作り、作業していければいいとの意見あり。

・2020年8月11日(基幹型運営)

- ・介護保険事業所短期入所連絡会 幹事会 ≡立ち上げ連絡会の幹事体制について
目的・役割について(レスパイト機能としての課題含む)
行政との課題共有、協議、施策への提言に向ける

・2020年8月17日(特養施設長連絡会の提案を受けポピーが場を調整)

医師会館にてポピー室長(医師)と市特養施設長連絡会代表打合せ

<内容>

・市特養施設長連絡会代表よりショートステイの機能について提案「嘱託医、在宅主治医との役割分担により、ショートステイ中の看取りも可能にしていけるのではないか。看取りまで視野にいれないと、医療重度者をショートステイに受け入れるのは難しい。しかし、ショートステイ途中の死亡診断については、制度的な縛りもあり簡単ではない。その件につき、特養施設長代表等代表者数人と嘱託医との意見交換の場を検討してほしい。」

・ポピー室長より

ショートステイについては、「長期のショートステイのような様相になっており、その機能の現状について疑問もある。検討する場合は、必要だろう。やりましょう」

→9月17日開催予定となる。

・2020年9月17日

上記打合せを受けて、検討の場を「山形市医師会 在宅医療・介護連携室 拡大運営会議」に位置付けて開催(通常の運営委員+医師、特養施設長他計23名)

協議テーマ「ショートステイ事業における医療と介護の在り方に関する意見交換会」

<意見交換要約>

・ショートステイで医療重度者を受け入れるということは、ステイ中の看取りの可能性も想定されるということである。しかし、ショートステイ中の診断には、現状、限界や課題があり、本人が望まなかったかもしれない救急搬送、救命処置が起きている可能性もある。また、そこに至るまでのACPの必要性が改めて見えてくる。医療・介護双方お互いに知らない現状もある為、レスパイト機能の充実を図るには、双方の現状理解、情報の共有が必要である。

・特養や単独型ショートステイ以外のレスパイト機能(病院や老健、小規模多機能)も含めて、今後も検討していく必要がある。